

天橋立について AMANOHASHIDATE

天橋立は陸前(宮城県)の松島、安芸(広島県)の宮島と共に日本三景の一つに数えられる景勝地である。

「丹後国風土記逸文」に、国を生まれた伊弉諾尊(いざなぎのみこと)が天に通うために梯(はし)を作られたが、命(みこと)が寝ていられる間に倒れ伏したという記事があり、これが名の起りである。

「日本三景」という発想が最初に見られるのは林春斎が寛永20年(1643)に天橋立を松島・厳島とともに「三処奇観たり」と述べた「日本国事跡考」の。その後元禄2年(1689)に福岡藩の儒学者、貝原益軒が天橋立を旅行した記録「己巳紀行」の中に初めて「日本三景」という言葉が登場する。

神秘的で美しい姿は、野田川から流れ出る砂粒と外海から流れ来る砂粒とがぶつかり合って出来たと考えられる。約500年前に描かれた雪舟画の国宝天橋立図には現在より短い天橋立が描かれている。

ノスタルジック天橋立(大正~昭和初期) NOSTALGIC



成相ケーブルカーより天橋立を望む 昔の飛船観



傘松の山路を登下する籠車と天橋中の遠望 人の力で運んでいた頃の組旋橋

イベント案内 EVENT

- 10 文殊堂十日あびす 10/4-11 高亮祭と智慧を授けらる。
- 24 龍神社葵祭(雨中祭り) 10/26 2500年の歴史を誇る丹後最古の祭り。
- 7 天橋立・府中海水浴場海開き 2つの海水浴場で海開きの神事などが行われる。
- 24 天橋立文殊堂「出船祭」 10/26 かり火で彩られた遊覧船の周辺で金龍が舞う。
- 1 天橋立「炎の架け橋」 10/27 300基のかり火で天橋立が幻想的に浮かぶ。龍神社葵祭▶
- 9 成相寺千日まいり この日、成相寺本尊に詣れば千日分のご利益。
- 16 宮津燈籠流し花火大会 10/16 観覧船に乗って流れる燈籠と打ち上げ花火が見事。
- 10 丹後きものまつりin天橋立 天橋立を会場にきものショーなどが行われる。
- 10 24 日本三景天橋立ふゆ花火 冬の澄んだ空と天の架け橋に花火が舞い上がる。
- 11 上旬 松葉ガニ解禁 11/1 解禁期間は11月上旬から3月下旬まで。

交通アクセス

JR山陰本線・KTR宮津線経由
京都▶福知山▶宮津・天橋立 約1時間40分
JR山陰本線・JR舞鶴線・KTR宮津線経由
京都▶綾部▶西舞鶴▶丹後本島▶宮津・天橋立 約2時間
京都縦貫自動車道・R9・27
京都▶丹波IC▶R9・27▶京丹波バスIC▶宮津天橋立IC▶宮津・天橋立 約1時間25分

JR福知山線・KTR宮津線経由
大阪・神戸方面▶福知山▶宮津・天橋立 約2時間
中国自動車道・舞鶴若狭自動車道・京都縦貫自動車道
大阪・神戸方面▶吉川JCT▶綾部JCT▶宮津天橋立IC▶宮津・天橋立 約1時間40分

新幹線・JR山陰本線・KTR宮津線経由
名古屋方面▶京都▶福知山▶宮津・天橋立 約2時間30分~3時間
名古屋方面▶米原JCT▶敦賀IC▶R27▶小浜西IC▶綾部JCT▶宮津天橋立IC▶宮津・天橋立 約3時間40分

元伊勢 龍神社 10/20 E-10 丹後一の宮の狛犬 F-11 真名井神社 10/24 C-11 傘松公園 10/21 E-10 成相観音温泉 10/31

元伊勢 龍神社 10/20 E-10
国宝「海部氏系図」重文「神前狛犬」などを所蔵する丹後随一の格式のある古社。丹後一の宮。高橋上の五色の座玉は神宮とこちらにしか見られない。

丹後一の宮の狛犬 F-11
社頭の狛犬二基は鎌倉時代の作。石造狛犬として日本一の名作との定評があり魔除の狛犬と云われる。重要文化財。

真名井神社 10/24 C-11
龍神社の奥宮。主祭神は伊勢神宮と同体の豊受大神でこちらから伊勢に遷されたと伝えられる。地場エネルギーが高いとされ芸能人も多く訪れる格式ある古社。

傘松公園 10/21 E-10
ケーブルカーまたはリフトで登る天橋立「股のぞき」の名所。股からのぞくと天地が逆さになり、天に架かる橋のように見える。

成相観音温泉 10/31
成相寺の身代わり観音様から授かったという豊饒あたらかな湯。府中温泉組合の旅館の内湯で浸ることができる。泉質はアルカリ性単純泉。

成相寺 10/20 E-7
西国28番札所として多くの参拝者が訪れる。悲話を伝える撞かすの鐘、底なし池、美人観音・聖観世音菩薩。しゃくなげの名所。

五重の塔 10/20 E-7
平成12年、開基1300年を迎えるにあたり、雪舟「天橋立図」にも描かれた五重の塔を復元。平面は方三間、高さは百八尺(33m)

真向の龍 10/20 E-7
「左甚五郎」作と伝えられている。成相寺境内にあるほとんどの龍は横向きに作られているが、この龍は珍しく正面を向いている。

府立丹後郷土資料館 E-5
丹後地域の貴重な歴史、民俗、考古の資料が展示、収蔵されている資料館。
開館/9:00~16:30
休館日/毎週月曜

丹後国分寺跡 E-5
府中が国府として栄えた頃、天橋立を見下ろす高台に絶好の立地として建てられた国分寺の跡が残っている。

トワイライトレールロード J-5
太陽が真横から松林を照らす夕暮れ時、天橋立が「海を渡る線路」のように見えるロマンチックな現象。府中・文珠の入り口や中間地点で見られる。

コハクチョウ飛来地 H-9
冬になると遠くシベリアから飛来する渡鳥たちの中でひととき美しい「冬の妖精」コハクチョウ。11月下旬~3月中旬。平均12羽~16羽(最高24羽)

阿蘇の舟屋 H-5
伊根の舟屋が有名だが、府中地区にも天橋立を正面にして約30軒ほどの舟屋がある。阿蘇海の観光船から見る事ができる。

天橋立ワイナリー 10/30 E-4
生ブドウ100%で加熱処理を施さない「生ワイン」を製造・販売している。天橋立を望む立地も魅力的。営業時間/10:00~17:00 休休日/水曜日

天橋立・府中海水浴場 10/16 W-5
日本三景「天橋立」で海水浴を楽しむことができる。ビーチは文珠地区の「天橋立海水浴場」と府中地区の「天橋立府中海水浴場」の2ヶ所。

智恵寺 10/20 M-5
古来より知られる文殊菩薩の霊場で、日本三文殊の一つ。丹後地方最大の山門、国指定重要文化財の多宝塔をはじめ貴重な文化財が多い。

山門 10/20 N-6
宝暦12年(1762)に着工、7年の歳月と大工延べ8,780人を要して再建された禅宗様式の山門である。丹後地方で最大規模を誇る。

智恵の輪灯籠 N-7
「九世の渡」の安全を守る輪灯籠であり、享保11年(1726)の刊行物にも描かれている。3回くぐると思恵を授かるとの言い伝えがある。

廻旋橋 10/27 O-8
文珠地区と天橋立を結ぶ橋で、船が運河を通る度に90度回る。回数は多い日で約50回。昭和35年に現在の橋が完成するまでは手動だった。

文殊港の灯明台 O-8
天保15年(1844)に大阪の商人、大和屋藤兵衛が、宮津の有力商人を世話人に頼み、文殊・船着きの灯明台として寄附したものである。

はまなすの小径 P-11
天橋立の南側、小天橋にはまなすの群生が広がっている。見ごろは4月下旬~6月初旬。年によっては5月下旬まで。遊歩道も整備されており、散策コースとして人気がある。

与謝野寛・晶子ご夫妻歌碑 N-9
近代を代表する歌人、与謝野晶子は夫の寛と共に幾度も天橋立を吟じた。平成18年に建立された夫妻の歌碑を天橋立内で見ることが出来る。

磯清水 10/20 L-8
海に囲まれながら真水が湧き出る不思議な名水。「一口はげに千金の磯清水」と俳句も詠まれ、永く珍重されてきた。日本名水百選の一つ。

橋立明神 L-8
正面は豊受大神、向かって左は大川大明神、右は八大龍王(海神)である。元伊勢を移したとの附説もあるが、文殊堂境内鎮守と考えられる。

岩見重太郎 L-9・M-10
桃山時代の剣豪、若見重太郎兼相は父の仇を追って宮津に入り、天橋立において本望をとげたと伝わる。試し斬りの石も残っている。

ビューランド展望台 10/22 E-11
リフトやモノレールで海拔130mの山上へ。ここからの天橋立の眺望は龍が天に向かって昇っていくように見えることから「飛龍観」と呼ばれる。

桜山 R-4
桃山時代の武将、細川幽斎が宮津城を築いた折に吉野の桜を植えたこと由来。天橋立眺望四大観の一つ。天橋立駅より徒歩10分。

あまのはしたて駅 O-6
天橋立観光の拠点となる駅。構内に観光案内所がある。駅舎が伊根の舟屋を模したもので、日本鉄道建築協会賞を受賞している。

天橋立温泉 智恵の湯 10/30 O-7
宮津唯一の外湯。智恵寺文殊菩薩の智慧と健康が授かるようにと命名された。入浴料/大人700円、子供350円 営業時間/平日14:00~22:00 土日祝12:00~22:00(休日入浴は21:00まで) 休休日/毎週水曜日

涙ヶ磯・身投石 R-12
涙ヶ磯は世阿弥の謡曲「丹後物狂」の舞台であり、屋島の源平合戦で敗れた平忠房の白拍子が捜索の目をくらますために身投げしたという悲話も伝わる。



日本三景 天橋立 ナビ情報付

散策マップ



雪舟「天橋立図」(京都国立博物館蔵)

